（未病研究会）

“統合医療における未病・免疫学分野の位置付け”

一般社団法人日本統合医療学会（IMJ）
理事長　渥美 和彦

《はしがき》

今世界において医療崩壊が起こっているが、これは、わが国において特に著しいと思われる。

その原因としては、

1）科学を基盤とした近代医学は、患者の治療に満足をもたらしていない。

2）医療制度や医療経済などのシステムが、医学の進歩や疫病構造の変化に対応できない。

3）価値観の変化が医療へのマイナアス志向をもたらしている。

それらに対して、世界の医療界は次のような解決策を検討している。

1）“治療の医学”から、“健康・予防の医学”への移行。

2）集団平均的な医療から、個人中心の医療への移行。

3）医師中心、政府中心の医療から、患者中心の医療へ移行。

4）身体のみならず、精神的、社会的、スピリチュアルな医療、すなわち全人的医療への移行。

これらは、まさに、近代西洋医学に伝統医学や代替医療を統合する“統合医療”へ移行するということに他ならない。（表（1））

そこで、欧米のみならず、アジアの諸国においても、政府が国策として統合医療を推進しようとして、国立の統合医療センターを設立し、各大学研究所において、人材の教育、養成、研究をすすめ、健康産業への展開を検討している。

この分野においては、わが国は、全く遅れている後進国と言わざるをえない。

《ヘルシー・エイジング、スピリチュアリティ》

最近、欧米のみならず、わが国においても、抗加齢、アンチエイジングの研究や技術の普及がすすめられている。

これらは、いずれも欧米先導の人工的抗加齢のコンセプトに基づいているが、私は、東洋的な思想を基盤とした、自然的なヘルシーエイジングを提案している（図（1））。

それは、ホルモン療法、形成手術、再生医学などの利用ではなく、伝統医学、鍼灸、瞑想、ヨーガ、自然療法などの利用である。これこそ、まさに、抗加齢への統合医療的アプローチといえよう。

統合医療は、全人的医療であり、身体、精神、社会のみならず、スピリチュアリティも重要な要素を占めることになる。（表（2））

スピリチュアリティの定義は多様であるが、霊性とか魂といわれるもので、“眼に見えないもの”への畏敬ともいうべきものであろう。

さて、人間は、大宇宙に比して小宇宙といわれている。この宇宙には、三つの謎があるといわれている。（表（3））それは、

1）宇宙は如何にして創られたか？

2）生命はいかにして出現したか？

3）物質の窮極のユニット（単位）は何か？

などである。

《 統合医療の課題 》

統合医療の課題は実に多くある。

しかし、学術団体として検討すべきものは、次の三つ、教育、研究、および行政の問題である。(表 (4)、表 (5))

教育としては、人材を養成するための専門大学や学部、学科の創設や増設であり、カリキュラムについては、国際的に検討が行われている。

研究については、米国において年間約 400 億円の研究予算が組まれているが、わが国においても、日本統合医療学会が中心になって、5 年間、100 億円の国家プロジェクトの提案が政府に対して行われている。

行政については、医療改革の中で、ＣＡＭの実態調査、データベースの作成、コスト／費用効果の分析が必要とされている。

《ユビキタス社会における統合医療》

最近、国民に安心・安全の健康、医療を守る社会の実現が切に望まれている。

その為には、患者中心の個人の医療でなければならない。

現代は、コンピューター社会であるが、これからは、さらに、ユビキタス社会に発展すると考えられる。

ユビキタス社会とは、モノにもレベルが付けられて、人と人との情報の連携の他に、人と物とをつなぐ社会になるということである。(表 (6))

“個々の人・モノ・設備・サービスを結ぶ、ユビキタスネットワーク” の中の統合医療こそ、真の医療の未来像となるであろう。

表(1) 今、何故"統合医療"か

1）西洋医学による近代医療は、科学的限界に達成し、個性的医療、精神的癒しなど、全人的医療がのぞまれることになる。

2）遺伝子科学、および再生医学の進歩により、治療中心の医療から、予防・健康中心の医療に変換することになる。

3）高額の近代医療に代わり、医療費節減をはかる相補・代替医療（CAM）の利用が考えられる。

抗加令 Anti-Aging	→	成寿加令 Healthy Aging
（西洋医学的）		（統合医学的）
・ホルモン療法 ・形成外科 ・再生医学 ・健康・補助食品	→	・伝統医学 ・鍼灸、マッサージ ・瞑想、ヨガ ・自然療法

図(1) Anti-Aging からHealthy Agingへ

表(2) Spirituality 霊性の定義

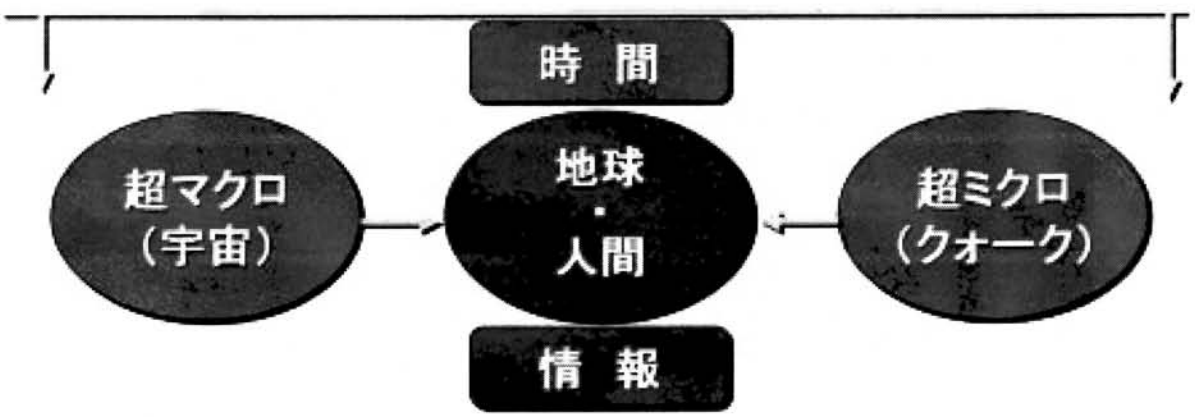
- 説明の困難な内容を表現する言葉であり、宗教性とは異なって存在している。(J.J. Petry, 2003)
- 人生の究極の意味や目的に関係する。(S.G. Post, 2000)
- 人生の生涯における行為に対して、その活力や意味にインパクトを与えるものである。それらは、眼に見えない要素に焦点を合わせており、信念あるいは信仰とも定義できる。(T.A. Maugans, 1996)
- "意識の座"、"全体性"(K.A. Wilber, 2000)
- 自己と他者・自然・究極のもの(時空を超越した)との間の調和的な関係のセンス(J. Hungelmann, 1996)
- 高いポテンシャルをもった信念、人生の意味への個人的信念

表(3) 宇宙世界の三つの謎

1) 宇宙は如何にして創られたか？

2) 生命は如何にして出現したか？

3) 物質の窮極ユニットは？



表(4) 統合医療推進のための課題(Ⅰ)

(1)教育の推進

- 医科大学におけるカリキュラムの作成と実施
- 統合医療大学の設立
- 医科大学院における統合医療部門の設立
- CAM大学の設立
- CAM学科の設立

(2)医療行政の改革

1) CAM実態調査
2) CAMデータベースの作成
3) CAMのコスト／効果の分析
4) CAMの医療への取り入れ

表(5) 統合医療推進のための課題(Ⅱ)

(3)統合医療の研究の推進

1)"統合医療"の国家研究プロジェクトの企画と推進

2)国立統合医療センターの設立

3)医療特区における"統合医療"の有効性
安全性の臨床研究の実施

4)統合医療の経済的、社会的、国際的成果の予測

5)統合医療の情報交流のための国際協力

表(6) 統合医療ユビキタス社会

1）国民に安心・安全の健康・医療を守る社会の実現

2）患者中心の個人の医療

3）誰でも、いつでも、どこでも、理想の医療を受けることができるシステム

4）個々の人・モノ・設備・サービスを結ぶユビキタスネットワーク